

センター名	あさぎり・おおくら総合支援センター
運営主体	社会福祉法人明石市社会福祉協議会
担当中学校区	朝霧、大蔵

区分	内容	質的評価
総合相談事業	<p>○各種会合やサロン、地域の行事に参加し、総合支援センターの周知活動を行った。</p> <p>○民生児童委員、地域住民、医療機関、金融機関、公共施設、商業施設等、様々なところから相談を受けた。</p> <p>○高齢者関係、介護保険関係だけでなく、様々な年代・内容の相談を受けた。</p> <p>○地域課題の抽出に至っていない。</p>	<p>【強みと考える点】</p> <p>民生児童委員・地縁組織の役員・地域の病院とのネットワーク</p> <p>【弱みと考える点】</p> <p>チームケアの意識が十分でなく、相談内容を確認しながら分析する場が設定できていない。</p>
権利擁護事業	<p>○地域住民の活動の場にセンター職員が参加し、介護保険の申請やサービス利用の説明と共に高齢者虐待に気づくポイント、消費者被害にあわないポイントなどの周知を行った。</p> <p>○居宅巡回を行い、介護支援専門員との顔の見える関係作り、高齢者虐待、消費者被害等防止の周知を行った。</p> <p>○虐待や判断力のない人への金銭管理が必要なケースへのセンター対応のタイミングが遅いと思われるケースがあった。</p>	<p>【強みと考える点】</p> <p>地域住民、民生委員、ボランティア、専門職等との連携</p> <p>【弱みと考える点】</p> <p>・多角的な検討を行うことができておらず、地域課題の分析ができていない。</p> <p>・虐待のとらえ方、判断力のない人の金銭管理の際に活用できる制度等の情報発信が不十分だった(介護支援専門員からの通報が遅れる場面があった)。</p>
包括的・継続的ケアマネジメント支援事業	<p>○民生委員と地域の介護支援専門員の交流会を実施した。</p> <p>○居宅介護支援事業所の介護支援専門員の事例検討会をサポートし、地域課題に関する問題意識を共有できた。</p> <p>○地域の事業所で意見交換や情報共有を行うとともに地域課題の解決に向けたネットワークづくりを目的とした交流会を計画した。</p>	<p>【強みと考える点】</p> <p>・地域からのニーズ把握ができています。</p> <p>・個別ケースでの居宅の介護支援専門員との細かな連携ができています。</p> <p>【弱みと考える点】</p> <p>小規模な居宅・事業所が多く、研修会や交流会の開催の日程調整に時間を要することを考慮したスケジュールリングが不十分</p>
多機関の協働による包括的相談支援体制構築事業	<p>○グループスーパービジョン形式による事例検討を行い、多機関の機能や効果的な連携について理解を深めた。</p> <p>○多機関協働ケース支援計画書を作成し、各機関との役割分担や目標設定を共有できるようにした。</p> <p>○地域ケア会議を実施したが、地区課題の抽出に至っていない。</p>	<p>【強みと考える点】</p> <p>事例対応を通して他機関と役割分担ができるようになりつつあり、相談しやすい関係性を作っている。</p> <p>【弱みと考える点】</p> <p>ケースの地理的要因や地域の人間関係等の環境因子についての情報把握が不十分</p>
生活支援体制整備事業	<p>○地区社協と福祉施設の橋渡し役を担い、施設見学を実施。その後、民生委員と介護支援専門員との交流会を開催した。</p> <p>○地区社協やまち協の各種会議、サロンなどへ参加し、適宜、住民との関係構築や生活支援コーディネーターの役割周知を図った。</p>	<p>【強みと考える点】</p> <p>・地域の住民の声をきめ細かにキャッチし、ニーズ把握ができた。</p> <p>・各種地域の会議や行事に参加し、会議の前後で役員の相談に対応することで、住民からの信頼を得ることができた。</p> <p>【弱みと考える点】</p> <p>・地域住民向けの研修会などの取組みが不十分</p> <p>・住民への生活支援コーディネーター活動の見える化が不十分</p>
認知症総合支援事業	<p>○認知症サポーター養成講座を16回開催した。民生児童委員協議会など地域の核となる対象に加え、小学生対象にも開催することができた。</p> <p>○認知症サポーター養成講座の基礎編だけでは不十分と考えられるため、センター独自で家族支援や当事者支援の観点を盛り込んだステップアップ編を作製した。</p> <p>○地域の会議やサロン等で、相談窓口としてセンターの周知を徹底した。</p>	<p>【強みと考える点】</p> <p>認知症の進行状況を具体的に説明するなど、小地域を単位とするきめ細かな認知症予防に関する意識啓発</p> <p>【弱みと考える点】</p> <p>住民の認知症を「我が事」として捉える意識の醸成が不十分</p>
いきいき！元気アップ教室等	<p>○各中学校区でいきいき！元気アップ教室を開催した。他の自主活動グループが参加しづらい場所を意識して会場選定を行った。</p> <p>○教室終了後の自主活グループへの移行支援を行い、住民主体で活動を継続している。毎回15人前後が参加継続され、地域住民による自助、共助の場となっている。</p> <p>○3～4か月ごとにまちなかゾーン会議を開催し、地域住民と専門職で地域の困りごとについて検討した。</p>	<p>【強みと考える点】</p> <p>フレイルの進行状況を具体的に説明するなど、小地域を単位とするきめ細かなフレイル予防に関する意識啓発</p> <p>【弱みと考える点】</p> <p>・住民に対して専門職から見た地域課題をわかりやすく提示できていない</p> <p>・住民と専門職がともに地域課題を考える場づくりが不十分</p>

2019年度 明石市地域総合支援センター事業報告書

センター名	きんじょう・きぬがわ総合支援センター
運営主体	社会福祉法人明石市社会福祉協議会
担当中学校区	錦城、衣川

区分	内容	質的評価
総合相談事業	<p>○緊急性を意識した相談対応や、相談後すぐに案内できるよう他機関の連絡先等をファイル化した。</p> <p>○広報誌や民生児童委員協議会、地域活動、まちなかゾーン会議等で民生児童委員や地域住民等にセンターの周知を行った。</p> <p>○地域アセスメントを行い、高齢化率が高く来所での相談が困難であるが支援が必要なケースが多い地区内にサテライト相談の活動拠点を設けた。</p>	<p>【強みと考える点】 過去の相談内容の分析から、それぞれの校区特性に応じた支援方法を検討できている。</p> <p>【弱みと考える点】 地域づくりの取組みが不十分</p>
権利擁護事業	<p>○圏域内の訪問介護事業所1か所に対して虐待防止啓発講義、訪問介護員との意見交換を行った。</p> <p>○民生児童委員協議会やサロンにて消費者被害の現状の報告と予防のための啓発活動を行った。</p> <p>○後見支援センターと連携し、圏域内のサービス事業所や居宅介護支援事業所に成年後見制度の活用に向けた講義、意見交換を行った。</p>	<p>【強みと考える点】 地域住民の集まりや民生児童委員の定例会の場で、実際にあった不審電話の内容等を伝え、相談窓口の啓発を行うことで消費者被害の防止に向けた注意喚起を行っている。</p> <p>【弱みと考える点】 地域づくりの取組みが不十分</p>
包括的・継続的ケアマネジメント支援事業	<p>○圏域内の居宅介護支援事業所、サービス事業所を対象に事例検討会を開催した。</p> <p>○ケース対応やサービス内容等について相談を受けた圏域内の介護支援専門員に対して定期的に状況を確認し、介護支援専門員のサポートを行った。</p>	<p>【強みと考える点】 センター主催の交流会や日々の密な連携により介護支援専門員とのネットワークが構築できている。</p> <p>【弱みと考える点】 民生児童委員が介護支援専門員との連携の必要性を認識できる意識醸成が不十分</p>
多機関の協働による包括的相談支援体制構築事業	<p>○多機関協働ケース支援計画書を作成し、センター内で支援の方針を共有した。</p> <p>○作成した計画書をもとに、他機関との役割分担を行った。</p>	<p>【強みと考える点】 多機関協働ケース支援計画書を用いて支援方針を共有することでセンター内の役割分担が進んだ。</p> <p>【弱みと考える点】 事業の理解が不十分</p>
生活支援体制整備事業	<p>○地域住民が活動している場所に出向き、参加者や代表者と関係性を構築し、それぞれの団体が抱える課題について話し合い、今後の活動につなげた。</p> <p>○学習会「明石版 無理しない地域づくりの学校」を実施し、地域住民が世代や障害の有無を超えて地域活動を始める後方支援を行い、新たなボランティアグループが立ち上がり、地域住民の集いの場ができた。</p> <p>○ケース支援から捉えた課題を、生活支援コーディネーターの地域との繋がり等を活かした取組計画を作成し、実行につなげることができた。</p>	<p>【強みと考える点】 センター内の多職種で相談内容を共有する仕組みができてきている。</p> <p>【弱みと考える点】 センター内の多職種連携が不十分なため、地域活動の現況などが共有できていない。</p>
認知症総合支援事業	<p>○認知症高齢者や家族等を支えるまちづくりに向け、居宅介護支援事業所や介護保険サービス事業所との事例検討、情報交換の場を開催した。</p> <p>○認知症サポーター養成講座の開催依頼を受け、講座を開催するとともに、各団体における課題などを把握した。</p> <p>○住民を対象に事前学習を実施後、サービス事業所や警察が参画し、要援護者見守りSOSネットワークの声掛け訓練を実施した。</p>	<p>【強みと考える点】 認知症に対する理解や関心が高いかどうかを把握できるなど地域づくりの取組との連動</p> <p>【弱みと考える点】 認知症高齢者や家族等を支えるまちづくりに向け、サービス事業所等との課題の共有は進んできたが、地域住民へのアプローチが不十分。</p>
いきいき！元気アップ教室等	<p>○各中学校区でいきいき！元気アップ教室を開催し、自主活動グループに発展した。</p>	<p>【強みと考える点】 健康意識の高い住民等のフォローを丁寧に行うことで自主活動グループに発展させている。</p> <p>【弱みと考える点】 開催会場について、使用料が高額であったり、徒歩圏内になく等の理由で参加しにくさがあるが、参加できない人にどうアプローチをするかの検討が不十分</p>

2019年度 明石市地域総合支援センター事業報告書

センター名	にしあかし総合支援センター
運営主体	社会福祉法人明石市社会福祉協議会
担当中学校区	望海、野々池

区分	内容	質的評価
総合相談事業	<p>○相談受付票を作成・活用することにより、個別ニーズの把握と専門職によるアセスメントを行うとともに、相談結果・相談レベルを判断し適所へつなげることができた。</p> <p>○サテライト相談や地域活動に参加し、地域住民から、地域の問題や個別ケースについて積極的に聞き取りを行った結果、相談件数が増加し、初期対応等につながっている。</p>	<p>【強みと考える点】</p> <p>地域住民と顔の見える関係性が徐々に構築できている。</p>
		<p>【弱みと考える点】</p> <p>相談内容が多岐にわたり、センター職員の高齢領域以外での対応力</p>
権利擁護事業	<p>○地域で開催している健康教室において、高齢者虐待防止法の説明を行い、地域住民への高齢者虐待の啓発を図った。</p> <p>○1回/3か月、センターへ上がってきた消費者被害の情報を民生児童委員協議会・各教室等で情報提供し、注意喚起を行った。</p>	<p>【強みと考える点】</p> <p>地域支え合いの家などの住民の拠点と繋がりが強く、地域住民への周知に繋げることができている。</p>
		<p>【弱みと考える点】</p> <p>—</p>
包括的・継続的ケアマネジメント支援事業	<p>○民生児童委員、民生児童協力員等と懇談会を年1回開催した。ネットワークを促進し、要援護者支援の強化及び地域ケアシステム構築に取り組んだ。</p> <p>○介護支援専門員を対象に「にしあかしほっこりミーティング」を年2回開催し、介護支援専門員間のネットワークを強化できた。(センターに相談しやすくなったとの意見があった。)</p> <p>○年1回市域で介護支援専門員のスキルアップを目的に研修会を開催した。</p>	<p>【強みと考える点】</p> <p>介護支援専門員と民生児童委員等とのネットワークができたことで、情報共有やケース相談ができ、センターを介さず問題を解決するしくみでできた。</p>
		<p>【弱みと考える点】</p> <p>居宅介護支援事業所間のネットワーク構築が不十分</p>
多機関の協働による包括的相談支援体制構築事業	<p>○複合多問題ケースについて、センター内で支援方針を協議し、多機関協働ケース支援計画書等をもとに支援をおこなった。</p> <p>○他の相談支援機関への訪問等により、センターへの要望や地域情報等の聞き取りを行い、センターとの円滑な協働につなげた。</p>	<p>【強みと考える点】</p> <p>個別ケース支援の解決と地域づくりの促進について、地区担当チームにて日常業務や評価会議などを通じた緊密な情報交換・情報共有</p>
		<p>【弱みと考える点】</p> <p>障害領域との連携が不十分</p>
生活支援体制整備事業	<p>○「みんなの広場」にて「何気なく地域で行われている支え合い」や「若い母親の思い」等をテーマに専門職と地域住民が共有し、今後の課題解決に向けて検討した。幼・小PTA有志数名に母親の思い等に関するヒアリングを行った。</p> <p>○「のいけ耳より交流会」にて自助の防災に焦点をあてることで、平時から取り組める工夫等を共有し、各種関係団体に周知することができた。</p> <p>○課題を抱えた個人と地域活動のマッチングが行える地区が増えている。</p>	<p>【強みと考える点】</p> <p>専門職間及び住民と専門職間の関係性が構築できしており、ともに考え、課題解決に向けて検討する意識が醸成されている。</p>
		<p>【弱みと考える点】</p> <p>次世代のリーダー候補の発掘の取組みが不十分</p>
認知症総合支援事業	<p>○こども向けの認知症サポーター養成講座を開催した。</p> <p>○コープこうべの交流スペースで、認知症タッチパネルを用いて、認知症の啓発を行った。</p> <p>○認知症初期集中支援チーム活動を実施した。</p>	<p>【強みと考える点】</p> <p>啓発等を通じて認知症に対する地域住民の関心を高めることができ、今後を担う子供にも認知症に対する理解を深める取組みができている。</p>
		<p>【弱みと考える点】</p> <p>地域特性に応じた支援体制(見守り方法等)の在り方の分析が不十分</p>
いきいき！元気アップ教室等	<p>○各中学校区に1か所、いきいき元気アップ教室を開催し、自主グループ活動に移行することができた(自主グループが少ない地域を選定)。</p> <p>○校区により、小学校区ごとに月1回、健康教室を開催したり、概ね3か月に1回、耳より講座(地域住民の健康寿命を延ばす内容)を開催した。</p>	<p>【強みと考える点】</p> <p>住民が集まって介護予防に取り組むことが効果的であることを啓発した結果、個々の健康に対する意識が高まった。</p>
		<p>【弱みと考える点】</p> <p>世話役となる方の負担軽減策の検討が不十分</p>

2019年度 明石市地域総合支援センター事業報告書

センター名	おおくぼ総合支援センター
運営主体	社会福祉法人明石市社会福祉協議会
担当中学校区	大久保、江井島、大久保北、高丘

区分	内容	質的評価
総合相談事業	○センター内で相談内容を共有することにより、来所、訪問等、相談者の希望に沿った相談対応ができた。 ○定期的なモニタリングにより相談窓口としての課題や改善点を抽出するとともに、職員全員で迅速かつ丁寧な対応を行うセンターの在り方を共有している。	【強みと考える点】 センターで相談内容を共有することにより、全職員が多様な相談内容を把握し、利用者が必要としている情報の適切な提供等につながっている。  【弱みと考える点】 虐待案件や家族全体の支援が必要なケースが発生した場合、支援に時間を要することで、必要な職員体制が維持できていないことがある。
権利擁護事業	○権利擁護事例について、定期的または必要に応じてセンター職員で共有し、計画的な支援方針や支援時の役割分担のもと、対応を実施した。 ○地域や事業所等に向き、判断力のない人の権利擁護に関して啓発を行った。	【強みと考える点】 継続支援が必要な方の状況把握と対応記録について、より明確に整理したことにより、適切なタイミングでのケース共有と職員間の役割分担ができています。  【弱みと考える点】 住民やサービス事業所に対して、高齢者の権利擁護意識向上の働きかけが十分にできていない。
包括的・継続的ケアマネジメント支援事業	○第二四半期までに居宅介護支援事業所を訪問し、顔の見える関係構築を行った。 ○介護支援専門員が求めている研修テーマを把握し、利用者の判断力のない人の金銭管理についての研修会を実施した。	【強みと考える点】 地域の介護支援専門員と顔の見える関係が構築できており、ニーズが把握できている。  【弱みと考える点】 引継ぎが難航するケースのフォロー体制が十分にできていない。
多機関の協働による包括的相談支援体制構築事業	○センター内にてケース対応や日々の業務上、連携の上手い点や、連携が難しかった点を抽出し、多機関の機能や効果的な連携について共有した。	【強みと考える点】 多くの複合的課題ケースを職員間で共有することができており、どのような相談であっても受け止める相談体制につながっている。  【弱みと考える点】 多機関連携を行うセンターの役割の整理ができておらず、市の関係課・専門相談機関との十分な連携の構築ができていない。
生活支援体制整備事業	○各校区で地域組織の会議等に参加したり、各種行事や教室等に参画した。 ○住民からの声を地域と共有し、新たな取り組みに活かせるよう整理を行っている。	【強みと考える点】 広く地域の活動に参画することにより、多くのキーパーソンの掘り起こしにつながっており、円滑な活動支援ができています。  【弱みと考える点】 地域へのアプローチが不十分で、十分なニーズ把握に至っていない地域がある。
認知症総合支援事業	○認知症サポーター養成講座を自治会向けに実施した。また、モデル的に小学生向けサポーター講座を実施した。 ○地域の活動場所を把握し、地域ケア会議を実施し、本人の社会参加が継続できるよう支援できた。 ○要介護者見守りSOSネットワーク声掛け訓練を実施したことで、地域と声掛けの難しさを共有した。 ○認知症カフェに参加し、家族会と一緒に運営方法を検討するとともに、本人・家族の困りごとを聞き取り、課題として多機関で共有した。	【強みと考える点】 地域とのつながりを活かして、地域における認知症理解へのニーズを積極的に把握したことにより、小学校や高校を含む幅広い世代への講座開催につながった。  【弱みと考える点】 認知症に対する理解や関心が低い地域に対する十分なアプローチ方法が検討できていない。
いきいき！元気アップ教室等	○今まで立ち上げた自主活動グループが活動を継続できるよう、積極的に相談に応じている。 ○各地区の資源情報マップを活用して社会資源の少ない地域での自主活動グループの立ち上げを検討するとともに、活動における場所や費用面といった課題の抽出を行った。 ○体操する場を求めている地域組織に対して、DVD配付や声かけを通じた働きかけを行った。 ○活動場所に関する社会資源を把握し、住民とともに活動の継続について検討した結果、新たな活動場所を開拓することができた。	【強みと考える点】 地域とのつながりを活かして、多くの活動グループの状況を把握できており、安定的な活動に向けたアドバイス等の支援を随時実施している。  【弱みと考える点】 代表者の負担軽減に向けたアプローチが不十分

2019年度 明石市地域総合支援センター事業報告書

センター名	うおずみ総合支援センター
運営主体	社会福祉法人明石市社会福祉協議会
担当中学校区	魚住東、魚住

区分	内容	質的評価
総合相談事業	<p>○サロン等に出向き、住民からさまざまな相談を受け止め、適切な支援機関や地域につないだ。</p> <p>○複合課題に関しては多機関と連携して情報収集と課題整理を行い、支援方針を立てて対応した。</p> <p>○民生児童委員、まちなかゾーンの住民組織、専門機関とのネットワークを活用して個別事例を発見し、サービスへの繋ぎ、見守り体制を整えた。</p> <p>○複数の事例から抽出した地域課題に対し解決策を検討した。</p>	<p>【強みと考える点】 民生児童委員との関係性</p> <p>【弱みと考える点】 効果的なケース記録のチェック方法の検討やフォロー体制が不十分</p>
権利擁護事業	<p>○高齢者虐待の早期発見・早期対応を目的に、介護支援専門員を対象に金銭管理や成年後見に関する研修会を主催し意識啓発を行った。</p> <p>○消費者被害の未然防止を図るため、詐欺防止のチラシや明石防犯ニュースを介護支援専門員や地域のサロンに参加する住民等に配布し注意喚起を行った。</p>	<p>【強みと考える点】 介護支援専門員に対する意識啓発等の結果、判断力のない人の金銭管理に関する相談が増え、実態を把握し早期対応によりトラブルの未然防止につなげた。</p> <p>【弱みと考える点】 市民啓発の意識的な働きかけが不十分</p>
包括的・継続的ケアマネジメント支援事業	<p>○地域ケア会議を通じて、身寄りのない要介護高齢者に対する理解を自治会と共有し、互いの役割を認識することで、主体的な見守り意識が高まった。</p> <p>○地域の居宅介護支援事業所との勉強会である「ケアマネさんいらっしやい」と事例検討会を開催し、介護支援専門員の研鑽の場となっている。</p> <p>○介護支援専門員の円滑な業務遂行のため、住民向け介護予防・自立支援の啓発のための講座を開催した。</p>	<p>【強みと考える点】 後見制度の活用や地域資源へのつなぎなど、能力に応じ自立した生活を送るための取組みが促進できている。</p> <p>【弱みと考える点】 介護予防・自立支援の啓発講座を実施できていない自治会等に対する働きかけが不十分</p>
多機関の協働による包括的相談支援体制構築事業	<p>○年4回多機関との事例検討会を開催した。</p> <p>○年9回多機関参加のネットワーク会議を開催し、互いの役割を共通認識できた。</p>	<p>【強みと考える点】 顔の見える関係性のもと、多機関が互いの役割を認識した連携ができるようになりつつある。</p> <p>【弱みと考える点】 複合課題の把握に関して、高齢者以外の支援者に対する働きかけが不十分</p>
生活支援体制整備事業	<p>○「認知症の人をつつむまちづくり第3弾」において、「自分が認知症になったらどうするか」などを考える「メッセージシート」を作成し、住民が認知症を「我が事」として考える啓発ができた。</p> <p>○自主防災組織の運営に参加し、避難行動要支援者、専門職、住民を交えた検討会を実施した。</p> <p>○自治会や老年クラブの困りごとに寄り添い、話し合いを促進したことで、目標は住民同士のつながりづくりという意識と参画意欲が高まった。</p>	<p>【強みと考える点】 住民が認知症を「我が事」と考える意識醸成のための働きかけ</p> <p>【弱みと考える点】 圏域全体への認知症理解の促進（特に、働く世代にはアプローチの方法を含め検討する必要がある。）</p>
認知症総合支援事業	<p>○これまでの活動を通じて築いてきた児童クラブや高校との関係性を前提に、積極的に認知症サポーター養成講座開催の呼びかけを行い、小学生から高齢者まで対象として、属性に応じた工夫を加えながら開催した。</p> <p>○地域密着型サービス事業所の運営推進会議で、認知症のある人や家族、認知症に関心のある住民とともに集える場づくりについて検討した。</p>	<p>【強みと考える点】 認知症サポーター養成講座では、児童にもわかりやすい絵本で説明したり、ロールプレイ等の手法を活用して認知症の正しい理解を啓発することができた。</p> <p>【弱みと考える点】 地域密着型サービス事業所の運営推進会議に十分な働きかけが行えておらず、当事者と家族の居場所等の課題を検討するしくみを作れていない。</p>
いきいき！元気アップ教室等	<p>○地域に開かれた障害者施設の協力のもと、いきいき！元気アップ教室を開始し、自主グループ「サンぼっち」が生まれ、活動の継続ができています。</p> <p>○まちなかゾーン会議のメンバーに働きかけ、様々な立場の関係者が協働して「魚住駅前健康祭」を企画・運営し、開催した。</p> <p>○地域の社会資源のシステム管理のほか、各種資料を常備しており、居宅介護支援事業所、住民への情報提供を適宜行った。</p>	<p>【強みと考える点】 ・障害者施設に働きかけ、開催会場を設定するなど、高齢者と障害者が共に笑顔で体操できる場づくり ・住民、福祉関係者、医療職との連携</p> <p>【弱みと考える点】 まちなかゾーン会議の目的・意義を十分に周知できていない（専門職に役割が偏り、地域力を十分発揮できない活動があった。）。</p>

2019年度 明石市地域総合支援センター事業報告書

センター名	ふたみ総合支援センター
運営主体	社会福祉法人明石市社会福祉協議会
担当中学校区	二見

区分	内容	質的評価
総合相談事業	○地域住民が集まる各種会合や催し、サロンなどに参加しセンターの周知を行った。 ○民生委員を始め、地域住民、医療機関、公共施設、商業施設等、多方面の支援者から、高齢者だけでなく幅広い年代の方についての相談を受けた。	【強みと考える点】 民生児童委員との連携により、地域の身近な相談機関としての相談支援に繋がっている。  【弱みと考える点】 相談内容が多岐にわたる場合、高齢領域以外の対応力がセンター全体としては弱い。
権利擁護事業	○ひとり暮らし台帳の活用や民生児童委員との連携により、虐待に至る前に介入することができたケースがあった。 ○専門職に対して研修会への参加を積極的に進め、虐待通報の必要性や通報後の流れについて周知した。	【強みと考える点】 民生児童委員と必要な連携が図れている。  【弱みと考える点】 虐待のとらえ方や判断力のない人の金銭管理の必要性の判断など、適切な対応のあり方について、介護支援専門員等への意識向上の働きかけが不十分
包括的・継続的ケアマネジメント支援事業	○地域の特定事業加算算定事業所の主任介護支援専門員との連絡会を運営し、ケアマネジメントを向上するため、地域ケア会議・事例検討会を開催した。 ○二見まろう会(地域の介護支援専門員の連絡会)と協力して高齢者ふれあいの里でサテライト相談会を開催し、地域の介護ニーズの把握を行った。	【強みと考える点】 二見まろう会の活動やサテライト相談等を通じてできた介護支援専門員との連携の基盤に加え、地域ケア会議・事例検討会の運営等により、主任介護支援専門員との連携が強化できた。  【弱みと考える点】 二見まろう会への参加について、圏域の全事業所に働きかけているが、介護支援専門員やサービス事業所に対する十分な情報共有やアプローチを行っていない等もあり、効果的に機能するネットワークづくりに至っていない。
多機関の協働による包括的相談支援体制構築事業	○相談支援包括化推進会議にて個別事例の課題抽出を行うとともに、各相談支援機関の業務や機能についての理解を深め、具体的な連携方法の検討等を行った。 ○高齢者運転免許の返納や、ひきこもり問題などについて、警察やひきこもり相談支援課との研修等に参加し、情報交換を行うなど連携を図った。	【強みと考える点】 これまで関わりの少なかった高齢分野以外(子ども・障害)の相談支援機関において、事例を通じた関係構築が図れており、円滑な連携につながっている。  【弱みと考える点】 高齢領域以外のアセスメント力が十分でないため、多機関とのネットワークを活かしきれていない。
生活支援体制整備事業	○ボランティアサポーター、ボランティア育成アドバイザーと協議を行い、居場所づくりから人材育成につなげる支え合いの仕組みづくりについて検討を行った。	【強みと考える点】 二見校区ボランティアサポーター、ボランティア育成アドバイザーと、定期的な協議の場を作れており、緊密な連携がとれている。  【弱みと考える点】 地域の活動者とニーズをマッチングする人材バンクの立ち上げにおいて、その活用・あり方の整理ができていない。
認知症総合支援事業	○認知症サポーター養成講座を実施(計5回)。民生児童委員、自治会に働きかけた結果、認知症になっても住みやすい地域づくりを目指し、対人コミュニケーショントレーニングを取り入れた講座を実施した。	【強みと考える点】 駅周辺に市民センターや銀行など認知症の方の立ち寄り先が集まっている地理的環境を活かし、これらの機関等と連携を図り、地域との情報共有や見守りを効果的に実施している。  【弱みと考える点】 キャラバンメイトの周知ができていない。また、認知症の方やその家族が参加しやすい場づくりの工夫ができていない。
いきいき！元気アップ教室等	○西二見公民館でいきいき！元気アップ教室を立ち上げ、自主活動に移行できた。 ○サロン、自主活動グループ等で介護予防教室を実施した。(8回) ○まちなかゾーン会議では、あかし健康プラン21のアンケート調査結果をもとに二見地区の健康課題を洗い出し、次年度の取り組みとしてモデル地区を選定し、小地域の健康課題の抽出と課題への取り組みを話し合っている。 ○二見まろう会において、高齢者への外出支援のため、たこバス活用を含めた取組みについて検討を進めている。	【強みと考える点】 教室開催後に、自主活動としての運営方法や会場設営、新しいプログラムの提案等を積極的に行い、円滑な活動継続につながっている。  【弱みと考える点】 ・一歩踏み込んだアプローチができていないため、開催に至っていないことが多い。継続的な働きかけが必要である。 ・地域づくりの取組みが不十分